

電動車椅子でどうぞ

高尾山に無料の充電器（東京都）

ミシュランの「日本旅行ガイドブック」で富士山と並び三ツ星を獲得したことで、海外からやってくる人も多い高尾山（東京都八王子市、標高 599 メートル）に、電動車椅子用の無料充電器が設置され、「電動車椅子でも安心して行ける山」としてお年寄りや障害のある人たちの話題になっている。

高尾山は、東京・新宿から電車で約 1 時間で行ける。登山路もいくつか整備されており、健康登山の目的で毎日のように登るお年寄りも多く、近年、車椅子利用者も増えた。そうしたことから最近、高尾山周辺エリアで活動をしている八王子市の浅川地区社会福祉協議会（上村 秀 如会長）に「高尾山に登るとバッテリーの消耗が激しい。途中で切れてしまうこともある」「登りたいがあきらめてしまう人もいる。充電できるところがほしい」といった声が届くようになった。

3 月には上村会長はじめ 30 人で実際に車椅子に乗って試し登山もして、電動車椅子用充電器の設置を周囲に働き掛け、無料での設置が実現した。

設置された場所は、ケーブルカー高尾山駅、薬王

院の参道途中にある茶店 3 か所（十一丁目茶屋、権現茶屋、もみじや）と薬王院の計 5 か所。近々、薬王院にもう 1 か所、ケーブル乗り場の清滝駅にも 1 か所設置される予定。

充電器は販売業者が提供し、電気代は茶店と薬王院、高尾登山電鉄が負担する。「みんな浅川地域への郷土愛が強く、設置はスムーズでした」と上村会長。

また同社協は、バリアフリー活動の一環で地元のお年寄りが手作りした車椅子用タイヤカバーを薬王院に奉納した。自分の車椅子で宿坊（畳座敷）に入り、人気の精進料理をいただけるとあって好評という。

先日、目の不自由な人が高尾登山電鉄職員にリフトに乗りたいと申し出た際は、「風を感じたいから」とのことだったという。「見た目では分からない、いろいろな方がいらっしゃる。皆が安心して楽しく過ごせる高尾山・浅川地域となるようにこれからも気を配り、活動を続けていきたい」と上村会長は話している。

（福祉新聞・第 2770 号 2016 年 7 月 11 日）

災害時の福祉的支援

NPO が報告書まとめる

NPO 法人み・らいず（河内崇典代表理事）はこのほど、災害時における福祉的支援のあり方に関する報告書をまとめた。東日本大震災以降、社会福祉協議会や社会福祉法人などがどのような災害支援を行っているかをまとめ、社会資源を活用しながら被災者を支援する「ジェネラリスト」の養成を提言している。

報告書では、全社協が災害ボランティアセンター設立の経緯や、機能などについて説明。昨年 9 月に起きた関東・東北豪雨では、宮城県にある大崎市社協の災害派遣福祉・介護チームが、福祉ニーズのある人たちにヒアリングし、介護保険などへつなげた取り組みなども紹介されている。また、防災事例として、北海道千歳市社協の見守り活動や、岩手県社

協の災害派遣福祉チームも取り上げられている。

そのうえで報告書は、災害時には被災者の福祉的支援を総括する被災者サポートチームを結成するよう提案。幅広い分野の知識を持ち、社会資源をつなぐコーディネーター役となるジェネラリストを育成するよう求めた。

このほか、全国にある福祉専門職の職能団体とネットワークをつくり、より迅速に応援要請をする体制を構築することも提案している。

報告書は 1,000 部製作しており、無料で頒布している。問い合わせはみ・らいず（Tel 050-5840-3113）まで。

（福祉新聞・第 2770 号 2016 年 7 月 11 日）